

# 資源評価調査委託事業 Ⅱ 漁場一斉調査

漁業資源課 松田 裕太

## 1 目的

土佐湾周辺海域に出現する流れ藻の来遊状況、流れ藻に付着するモジャコの出現状況、サイズ組成等を把握し、ブリ資源の動向把握及びモジャコ漁業の効率的な操業に資する。

曳網を用いた採集調査は平成 21 年から毎年継続しており、本報告では平成 31 年及び令和元年の実績を報告する。

## 2 方法

### (1) 調査期間

前年までと同様に毎月の定線調査の際に実施した（定線の位置は図 1 参照。5 月は土佐湾定線及び室戸東定線のみ）。各月の調査期間は以下のとおりであった。なお、3 月の調査は前年度（平成 30 年度）事業に含まれる。

3 月調査・・・平成 31 年 3 月 11～18 日

4 月調査・・・平成 31 年 4 月 4～12 日

5 月調査・・・令和元年 5 月 8～13 日

### (2) 調査船

漁業指導調査船「土佐海洋丸」80 トン

### (3) 採集漁具

曳網（目合：6 本 30 節）

### (4) 調査手順

- ・目視により流れ藻を探索し、視認点の緯度経度、水温、流れ藻数を記録。
- ・1 日当たり 5 個程度を目安に流れ藻を採集し、流れ藻重量、モジャコ付着尾数を記録。
- ・帰港後、モジャコの尾叉長を測定、流れ藻の種を同定。

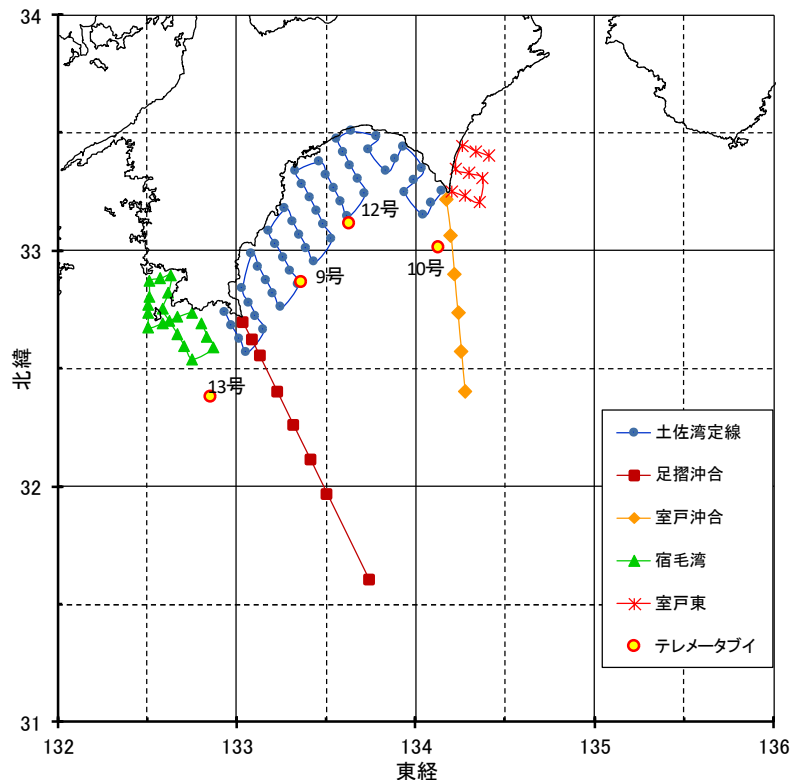


図 1 定線図

### 3 結果

#### (1) 流れ藻数

月別の流れ藻視認点数は表1のとおりであった。

3月は前年及び平年（平成20年～平成29年の平均値）を下回った。主な視認海域は足摺岬沖合で、沿岸域での視認はわずかであった。

一方、4、5月は前年及び平年を上回り、沿岸・沖合を問わず幅広い地点で流れ藻が視認された。

表1 月別の流れ藻視認点数

	H31(R1)	前年	平年
3月	33	86	64
4月	187	29	64
5月	156	8	44

#### (2) モジャコ付着尾数

月別の流れ藻1個当たりのモジャコ平均付着尾数は表2のとおりであった。

3月は前年及び平年を上回った。4、5月は前年及び平年を下回った。3月は流れ藻の来遊が非常に少なく、モジャコの流れ藻への付着が集中したが、4、5月は流れ藻が多く、付着が分散したためと考えられる。

表2 月別のモジャコ平均付着尾数

	H31(R1)	前年	平年
3月	20.4尾	7尾	19尾
4月	9.4尾	128尾	17尾
5月	11.0尾	34尾	30尾

#### (3) モジャコ尾又長組成

3月：5.0～7.9cmのサイズが多かった。

4月：1.5～10.0cm以上まで幅広く、2.0～3.9cmのサイズが多かった。

5月：1.0～10.0cm以上まで幅広く、2.0～3.9cmのサイズが多かった。

#### (4) 流れ藻の構成種

3月：ほとんどがアカモクで、わずかにヨレモクモドキが見られた。

4月：ほとんどがアカモクで、わずかにヨレモクモドキ、アマモが見られた。

5月：アカモク主体で、ヨレモクモドキ、フタエモク及びフクロノリが見られた。

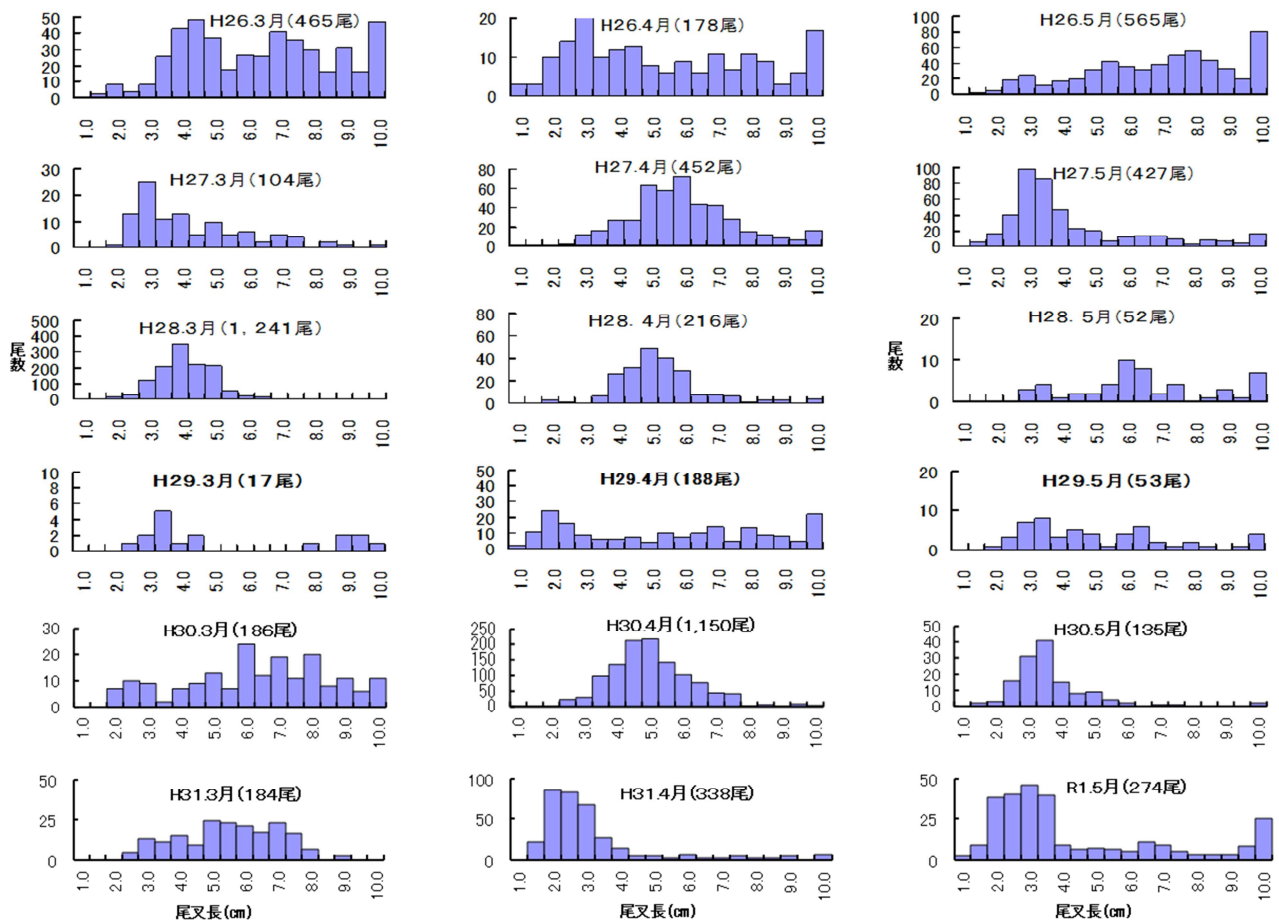


図 2 採捕したモジャコの月別尾叉長組成